

新年に向けて

早いもので、令和2年が終わりを告げようとしています。今年は、教員人生の中でも最大の試練の年であり、記憶に残る1年となりました。そこで、大中令和2年の10大ニュースを勝手に考えてみました。

- No.1 前年度卒業生への在校生の歌声・・・休校直前の卒業式練習での現2，3年生の歌声。涙。
- No.2 コロナウイルス感染症のため3か月間休校・・・とても寂しい学校でした。仕方ないね。
- No.3 突然の落雷・・・学力テスト中の生徒は動揺せず。コンピュータが何台か壊れました。
- No.4 キャンプ中止・・・代わりの体育館でのファイヤー。このアイデアも取り組みも最高。
- No.5 郡大会や各種コンクール中止・・・3年生にとっては最後の活躍のチャンスがなくなり無念。
- No.6 短かった夏休み・・・お盆休みだけ。社会人になれば普通でも、中学生はもっと休みたい。
- No.7 延期と行先変更された修学旅行・・・それでもみんないい笑顔で参加してくれて、感激。
- No.8 工夫を凝らした大中フェスタ・・・感染予防の配慮と展示の両立。なかなか見事でした。
- No.9 学年ごとの合唱祭・・・練習がままならなかったのに、とても素晴らしい歌声。感動した。
- No.10 体育館・武道場にエアコン設置・・・もうすぐ使えるようになります。すごい時代だ。

どうでしょうか。君たちは今年1年を振り返ってどんな思いが心に残りましたか。コロナのことが頭から離れない1年でしたが、そんな中でも大中学生の皆さんが元気に登校して来る姿や日々学習や運動に励む姿が、私に元気を与えてくれました。そしてできるだけ生徒の皆さんが、満足のいく学校生活を送られるような手立てを、生徒や先生たちと考え、行っていく活力になりました。ありがとう。

先日地球に戻って来た（また飛んで行ってしまいましたが）はやぶさ2のプロジェクトマネージャーの津田雄一さんは、「大人は凄いことをやっている。とんでもないことに挑戦し、面白い未来を作っている。未来には希望はしっかりあり、大人になることは楽しいことだ。そう子供たちに感じてほしい」と著書に書いています。時は止まっていませんし、君たちの未来はこれから広がっていくのですから、悲観してばかりはいられません。私たちも生徒の皆さんに夢や希望が与えられるよう頑張っていきます。マスクで表情が分かりにくくなっていますが、笑顔で共に新しい年を迎えましょう。



＜大中フェスタの様子＞

生徒意見発表

「本当の価値とは……」 一年一組 末川ひとは

数々の行事が縮小や中止になる中、合唱祭が行われると聞いたとき、私はとてもうれしかったです。なぜなら、みんなと同じ目標に向かっていける行事がとても好きだからです。しかし、中学校の行事はそんなに簡単なことではありませんでした。初めてみんなで「COSMOS」を歌った時、不安がこみ上げてきました。CDをもらって聴いているはずなのに、一人一人の音程やリズムが合っていなかったからです。この先どうやって練習していくべきか分からず、頭が真っ白になりました。すぐに気持ちを切り替え、まずパートごとにまとまるようにしなければいけないと思いました。先の見えない道でした。練習中、一部の人がふざけて周りの人が集中できなかったり、話し合いの時、みんなの意見が出なかったりして、一組のみんなが何を思っているのか全く分かりませんでした。なかなか練習が進まず他のクラスより遅れていました。この状況をどう乗り越えたらいいのかわからず、とまどっていた時に神野先生が「みんなと同じ方向に向かっていく気はあるのか。」「練習したくないなら、ここにいないでもいい。」など、私たちの心に刺さるような言葉を投げかけてくれました。それをきっかけに一組は一人一人が積極的に意見を出し、周りを見て行動する人が少



しずつ増えるようになり、よい雰囲気が変わっていきました。一気に変わらないけど、気持ちが変わっていくとそれが周りにも伝わり、集団の行動も変えられるとわかりました。合唱祭当日、本番前みんなと円陣を組み、心をつにしてから本番に臨みました。一組らしい歌声が一つにまとまり、最優秀賞をいただくことができました。そのまま、現在までよい雰囲気で過ごしています……。となれば美しい話なのですが……思わぬ落とし穴がありました。合唱祭が終わった後、クラスで気のゆるみなどが出てきつく叱られてしまうことがありました。こういう緩みもまだ一組の課題です。この先残された一年生で全員の行動を改めていき、最優秀賞の価値に合うクラスにしていきたいと思います。私も学級委員として、「一組でよかった」と思えるようなクラスをつくっていききたいと思います。

「私の挑戦」 二年三組 野田あずさ

私は二学期で特に二つのことを頑張りました。一つ目は、コンピュータ部の部長になったことです。三年生が引退し、二年生が最高学年になりました。そこで、私は部長になってコンピュータ部を引っ張っていきたいと思い部長に立候補しました。部長になってからは、後輩にアドバイスをしたり、検定を受けるために部員と一緒にタイピング練習をしたりして、よりよいコンピュータ部にするために活動していきました。三学期も部長としてしっかりと部を支えられるように頑張りたいと思います。二つ目は、合唱祭の実行委員です。今回が初めての挑戦で、自分の中でもどうしようかと迷っていました。しかし、やらずに後悔するよりも挑戦してみても失敗する方が、自分にとっていい経験になると思い実行委員として頑張ることを決めました。実行委員の仕事をするなかで、慣れないこともたくさんあり、諦めそうになったことが何度もありました。諦めそうになった時は初めの気持ちを思い出してやり切り、いい合唱祭になりました。一学期では、挑戦しようと思ったことでも私には出来ないという気持ちが勝ってしまい、結局挑戦せずに終わってしまうことが多々ありました。だから、二学期こそはと思い、自分には出来ないかとも思っても、挑戦しないとわからないと自分に言い聞かせて行動しました。その結果、たくさんのことを学ぶことができました。この経験を生かして、三学期も自分からいろいろなことに挑戦し、悔いのない二年生だったと思えるようにすること、そして、三年生に向けてしっかりとした人になれるように一日一日を大事にしていきたいです。



「最後の合唱祭」 三年四組 鷹羽 春朋

私が二学期一番印象に残っているのは、やはり中学校生活最後の合唱祭です。私は三年間、指揮者を務めました。毎年クラス全員をまとめる大変さを実感します。しかし、今年は今までとは異なる合唱祭。練習時間は短く、密を避けなければいけないので、例年よりも思うように練習ができず、とても大変でした。三年四組が選曲した「あんたがたどこさ」は、ア・カペラでインパクトのある個性的な曲でした。今まで歌ってきた合唱曲とは異なり、本当に歌えるか不安になることもありました。この曲は、テンポの変化が多くあり、四つのパートがリズムを合わせないと曲が成り立ちません。なので、一回一回の練習を精一杯行いました。最初は、テンポがつかめずバラバラになることが多く、同じフレーズを何度も練習しました。思うように声が出なかったり、気持ちが一つにならなかったりして、練習がはかどらないこともありました。互いにアドバイスし合いながら根気よく練習を重ねていくうちに、皆が成長していきました。全員がぴったりとリズムを合わせて歌えた時は、とても嬉しかったことを覚えています。本番では、クラス全員が心を合わせて今までで一番良い演奏をすることができたと思います。自分自身もあまり緊張せず自信をもってできたので、最高の状態で発表でした。全員の思いで最優秀賞という、素晴らしい賞をいただけたので、とても良い思い出となりました。共に頑張った仲間感謝の気持ちで一杯です。これから受験に向けて、大切な時期になっていきます。合唱祭の時のように、精一杯勉強に取り組んで、自分なりに努力して向上していきたいです。そして、自分の進路を切り開いていきたいです。

